

2024年5月

第164号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート
TEL 018-883-1888

繰り返す政治とカネ問題

1948年に復興金融金庫の融資をめぐる昭和電工と政官界との贈収賄事件、いわゆる「昭電疑獄事件」が発生し、連合国司令部(GHQ)の指令により「政治資金規正法」が制定された。

これは、政治活動の公明と選挙の公正を確保することを目的として、政治団体の政治資金の公開に重点が置かれたものであった。しかし、その後も政界における「政治とカネ」問題は後を立たず度々事件が表面化しそれに伴い政治資金規正法の改正がなされてきた。主な事件としては、1954年「造船疑獄事件」(佐藤栄作総理関与・当時の犬養法相が指揮権発動)・1976年「ロッキード事件」(田中角栄元総理大臣関与)・1988年「リクルート事件」(竹下内閣総辞職)・1992年「東京佐川急便事件」(竹下総理、田中元総理との関係修復のため東京佐川急便社長経由で暴力団組長が関与。その後、暴力団関連会社が多額の債務保証を受ける)・2010年「陸山会事件」(小沢一郎元民主党代表の資金管理団体「陸山会」にまつわる政治資金収支報告書の虚偽記載疑惑)が発生。

2013年以降は、自らが支部長を務める政党支部に政治資金を寄付し、その政党支部から自らの後援会に寄付金を還流させて後援会の政治資金を確保する「迂回寄付」が横行。それによって所得税の還付を受け問題視されるようになった。2020年以降も河井前法相・同安里元参議院議員の選挙人買収による公職選挙法違反、吉川元農水相が鶏卵大手の「アキタフーズ」から賄賂を受け取り、2023年には秋元外務政務官が洋上風力発電をめぐる「日本風力開発」から多額の賄賂を受け取ったとして受託収賄罪で起訴されている。

そして、2024年自民党派閥の政治資金パーティーをめぐる裏金事件が表面化し政界を揺るがしている。これは、過去5年間で自民党の安倍派(清和政策研究会)の会計責任者が6億7503万円、二階派(志帥会)会計責任者が2億6460万円、岸田派(宏池政策研究会)でも3059万円のパーティー収入を資金収支報告書に記載せず一定のパーティー収入を上げた議員に対してキックバックしていたもので、自民党ではこうした不適切処理の責任者2人を離党勧告、計39名を党内処分とした。

政治資金規正法は、このような事件発生を防止するため度々改正を行ってきているが、事件の抑止に至っていない。現在、東京15区など3選挙区で衆議院議員補欠選挙が行われているが2選挙区で自民党は候補者を擁立せず不戦敗となっている。現在不正防止のため規制法改正案が練られている。問題は規正法改正も大切だが、一番大切なのは法律を遵守する姿勢が問われていると思う。国民が目を見開いて遵法精神を持たない議員を国会に送り込まないことである。



切れ者でありながら鈍くさくあれ

ニーチェの言葉

シャープでスマートだけではいけない。鈍くさいところも必要だ。

切れるだけがカッコいいのではない。切れるだけだと、いつまでも「まだまだ若い」と言われて、どこか軽く見られてしまう。錆びも必要だ。

シャープでありながら鈍くさいところもあることによって愛嬌があるように見られて人に好かれるようになるし、誰かが手伝ってくれたり味方になる余地も出てくる。

そして、切れるだけのときよりも、ずっと得をすることになる。

【たわむれ、たばかり、意趣ばらし】

愛する人は成長する

ニーチェの言葉

誰かを愛するようになると、自分の欠点やいやな部分を相手に気づかれないようにとはからう。

これは虚栄心からではない。愛する人を傷つけまいとしているのだ。

そして、相手がいつかそれに気づいて嫌悪感を抱く前に、なんとか自分で欠点を直そうとする。

こうして人は、よい人間へと、あたかも神にも似た完全性に近づきつつある人間へと成長していくことができるのだ。

【悦ばしき知恵】

古典を読む利益

ニーチェの言葉

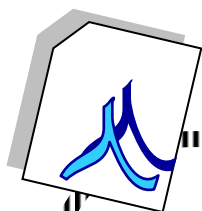
おおむね読書はたくさんの益をもたらしてくれる。古典は特に滋養に富んでいる。

古い本を読むことで、わたしたちは今の時代から大きく遠ざかる。全くみしらぬ外国の世界に行くこともできる。

そうして現実に戻ったとき、何が起こるか。現代の全体の姿が今までよりも鮮明に見えるのだ。こうしてわたしたちは、新しい視点を持ち、新しい仕方で現代にアプローチできるようになる。

行き詰まった時の古典は、知性への特効薬だ。

【人間的な、あまりに人間的な】



フローレンス・ナイチンゲール (看護師・統計学者等)

- 1820年5月12日 イギリス人父母がイタリア旅行中にフレンツェで生まれる。裕福な家庭で生まれ、幼少の頃から「語学」「数学」「天文学」「経済学」「絵画」「地理」など高等教育を受け広く教養を身につける。
- 1849年頃 イギリスで飢餓が蔓延していて、貧困層の醜い暮らしを目の当たりにして、慈善奉仕活動をしたいと決意。
- 1851年(31歳) 両親の反対を押切り、ドイツのカイゼルスベルト学園で看護師の勉強に入る。その後英国で医療や看護・病院運営の教育を受けた。当時看護師は専門知識のない唯のお手伝いの使いを受けていた。
- 1853年 オスマン帝国トルコとロシアの戦争勃発。野戦病院に赴いても軍から歓迎されず看護の業務に就くことができなかった。傷病兵は不潔な病院で感染症のため42%も死亡。これを、便所掃除から、看護のあり方、食事などの改善など渾身の働きによって死亡率を14.2%まで引き下げ。クリミアの天使・白衣の天使・ランプの貴婦人などと呼ばれるようになった。
- 1863年 「Notes on Hospitals」(病院覚書) 出版。
- 1883年 赤十字勲章授賞。
- 1907年(87歳) 女性で初めてメリット勲章を授けられる。
- 1910年(90歳) ロンドンにてその生涯を閉じる。

オススメの BOOK



「名作が教える 幸せの見つけ方」

著者 鈴木 秀子 出版社 致知出版社

著者は、東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。フランス・イタリアへ留学。ハワイ大学、スタンフォード大学で教鞭をとる。カトリックの聖心会の修道女。

本書は致知出版社の月刊誌「致知」に長年連載を続けている「人生を照らす言葉」の中から、名作22篇を「悲しみの底から光がある」「生かされて生きる」「より良き人生の心得」「心をひらく」「誰のために」など、こころを照らす光の一冊だ。



心のサインに気づこう

5月から6月にかけては、季節の変わり目とも相まって、メンタルヘルスの不調を訴える人が多くなるシーズンです。

心と身体は繋がっています。心が発するサインに気づき対処していくことが、心の健康の第一歩になります。

心のサインは「気分」「行動」「表情」「体」に現れます。（右表参照）

ストレスとは、もともと物理学の用語です。物体が衝撃（ストレッサー）を受けたときにできる「ゆがみ」を表現する言葉が、人体に当てはめて使われるようになりました。

日常生活の中で、ストレスの元となるストレッサーがなくなることは、まずあり得ません。ですが、ストレッサーの大きさとストレスの大きさは必ずしも比例せず、個人によっても変わります。具体的には、①回復力を高める②サポートを求める③考え方の癖を点検する-ことによって生じるストレスは小さくすることができます。

ストレスを感じたら、逃げるのではなく、向き合うことが大事です。つらい・悲しいなどの気持ちと向き合い、どうやってそれを乗り越えるかを学ぶことが生きる力になるはず。ストレス対応能力を付けることは、目に見えない『財産』。「昨日の自分より今日の自分が成長した」という喜びを感じられれば幸せですね。

★気分のサイン

- 怒りっぽい
- 楽しいことがない
- イライラ
- 自分が無価値に感じる
- 独りぼちな孤独感
- やる気がしない
- 億劫

★行動のサイン

- 動作のスピードが遅くなる
- 決められない
- 身だしなみに構わなくなる
- 遅刻が多い
- ミスが増える
- 家事ができない

★表情のサイン

- 笑いがなくなる
- 表情がない

★体のサイン

- 睡眠障害
- 体の痛み
- めまいや耳鳴り
- 肩こり
- 食欲の変化
- 胃腸障害など
- だるい

多くの項目が当てはまるよりも、1項目でも長く続いているサインがあれば、ストレッサーが多いかなと、思いめぐらせてみてください。

【編集後記】

今年は例年になく桜の開花も早く、春の訪れの早さに驚いている。

ドジャースの大谷選手も信頼する通訳に裏切られた感じで、今年の活躍に赤信号が灯るのか心配していたが、日本人選手松井選手のホームラン数も超え、次第にエンジンが掛かってきたように思う。

大谷選手の活躍は、多くの人達に夢と希望を与えてくれている。他のスポーツでは日本女子卓球の早田ひな選手が世界ランキング6位、張本美和選手が同8位と中国卓球王国を脅かす存在として浮上してきている、今後に期待したい。